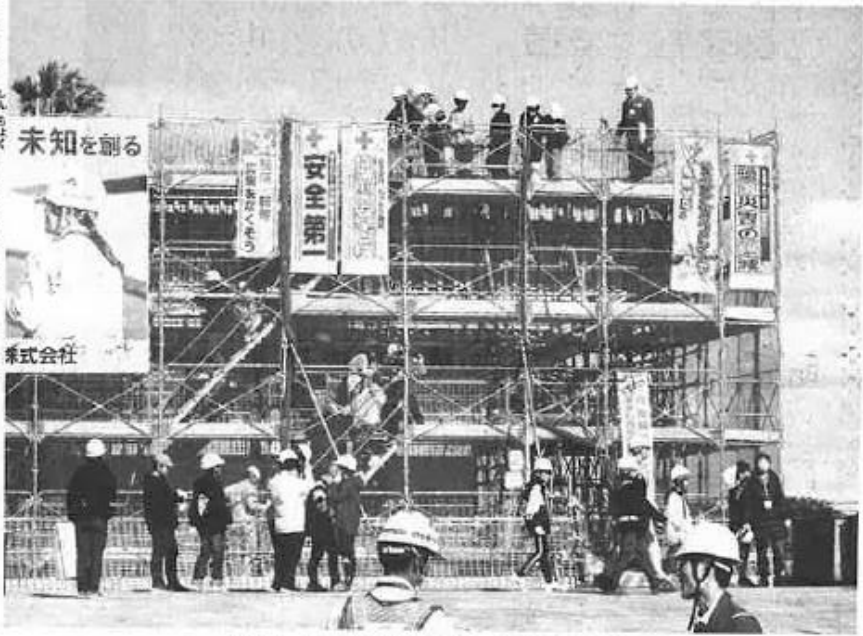


万田小

荒尾の将来像考える

有明海建設現場を見学 沿岸道路



建設中の橋脚に登った児童たち

自分の名前を書いた。工事が進めば見えなくなってしまうが、市都市計画課の畑田康彦さんは「これから大きくなって運転免許を取り、完成した道路を走った時に思い出してもらえれば」と話していた。

児童からは「あんな高い所に登れてうれしい」「完成したら車を運転して走ってみたい」などの感想が聞かれた。

同校の松田公美子教諭は「荒尾市のまちづくりが進められ、道路が完成する時には人口も増えるでしょう。その頃に荒尾市を担うであろう子どもたちが地域の将来像を考えるきっかけになれば」と今回の見学の意義を話した。

(草野正)

荒尾市万田小学校（北岡 誉久校長）の6年生70人が13日、旧荒尾競馬場跡地の南新地土地区画整理事業地区北側で有明海沿岸道路の建設現場を見学。荒尾市の将来像を考えた。

児童たちは国土交通省九州地方整備局の横町将司建設監督官と、施工を担当している興亜建設工業㈱長洲町腹赤Ⅱのスタッフらから

工事の進捗状況などを聞いた後、現場責任者に引率され、ヘルメットと軍手を着けて実際に橋脚に登っ

た。思い出になるようにと、児童たちは橋脚上部のコンクリート部分に油性ペンで

R5年11月24日付け

有明新報掲載記事